



九条の会. ひがしなだ ニュース

第49号

2014年2月

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp

私のひとこと

私は1キリスト者として「私のひとこと」に投稿致します。私は日本が真珠湾攻撃をした昭和16年の翌年、今津二葉教会で洗礼を受けました。それから今日までキリスト者として平和運動に取り組んできました。

私の平和主義は、安倍首相の言う「積極的平和主義」とは正反対で、「絶対的平和主義」です。「お国のために」でも、「正義のために」でも、「民主主義を守のために」でも絶対に戦争をしてはならないのです。なぜならば、戦争をすれば必ず人を殺さざるを得ないからです。

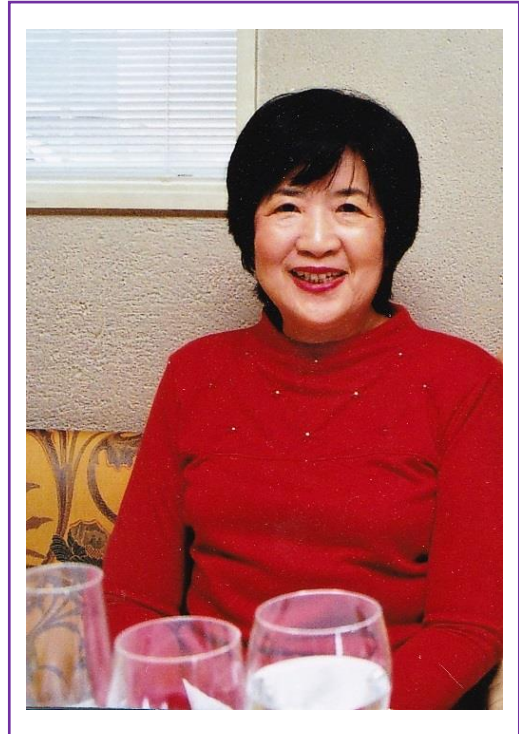
日本は世界で唯一の被爆国です。あの惨たらしい経験があったからこそ「憲法九条」で不戦の誓いをしたのです。「アメリカから押し付けられた」という人がいますが、たとえ「押し付けられた」としても世界に誇るべき憲法であることに変わりありません。

戦争は音もなく忍び寄ってきます。ところが今、その足音が聞こえてきています。平和は、安倍内閣が着々と準備している「憲法改悪」によって脆くも壊されようとしています。

私は1960年代に芦屋岩国教会に所属していたころ「みんなで憲法を学ぶ会」というのを始めて、毎月1回勉強会を行っていました。そのころまだ政治家でなかった同志社大学の土井たか子先生や大阪市立大学の黒田了一先生を講師にお招きしたこともありました。また、神戸栄光教会では毎月1回社会委員会で“平和”についてさまざまな問題に取り組んで来ました。2006年5月3日には「日本を戦争のできる普通の国にしないための私たちの発言」という小冊子を発行しました。

憲法九条を護る運動は、不断の努力で続けていくべきで、文化、イデオロギー、宗教、民族の多様性を超えて同じ人類として神様から与えられたこの美しい地球という惑星を守って行かなければならないと強く信じています。

(九条の会. ひがしなだ 呼びかけ人 海野光子)



8周年記念講演会・総会に参加しよう 沖縄の良識と知性が楽しみだ

2月23日の8周年記念講演は実に楽しみだ。沖縄の良識と知性の塊り、前泊博盛沖縄国際大学・大学院教授が講演する。教授は元琉球新報の論説委員長である。

ご存知のように沖縄には、二大地方紙「琉球新報」と「沖縄タイムス」がある。この2紙は常に県民の立場に立って報道をする民主的新聞である。故に反日左翼新聞だとか、あらぬ中傷を受けることもあ

る。本土の御用新聞のようなことは一切ない。1月31日の琉球新報は「海外識者100人超 声明を最大限生かそう」のタイトルで要点以下の社説を掲げた。

「世界の目が沖縄に集まり始めている。普天間基地即時返還と辺野古新基地建設反対に賛同する海外識者ら呼びかけ人が100人を超えた。ノーベル賞受賞者など幅広い影響力を持つ人々が名を連ねている（中略）新基地建設を拒否した名護市長選の結果を無視して、建設を強行する日米両政府の姿勢は、世界的影響力を持つ識者らの知るところとなり、国際的な署名運動へと広がっている。（中略）一方、安倍首相は民主主義の基本である選挙結果を無視して新基地建設の準備に入った。（中略）世界の目を沖縄に引き寄せた原動力は、名護市長選挙で明確に辺野古拒否の審判を下した名護市民の行動であり、日米両政府の圧力に屈せず自らの尊厳をかけて異議申し立てを続ける県民の不退転の決意である。（中略）日米両政府は考えを改めるべきだ。 どうですか、この毅然とした主張は。

前泊教授は、この新聞の論説委員長を歴任した方だ。新聞の編集委員や論説委員はテレビの解説委員と異なり、自らの意見や主張を述べる事が出来るそうだ。中でも委員長の姿勢がその新聞の方向性を決めると言っても過言ではない。

講演のタイトルは「知ってはいけない！ 本当の日本の憲法、人権、安保、民主主義の現実」となっている。おかしいやないか、何故本当のことを知ったらアカンのや。真実は講演会で明らかになるやろ！こぞって講演会に参加して学ぼう！

教授には多数の著書がある。「本当は憲法より大切な日米地位協定入門」。コピーには、「原発再稼働、不況下の大増税、オスプレイ強行配備、TPP参加、日本はなぜこんな国になってしまったのか、戦後日本最大の闇に迫る」とある。どうやらここら辺りに講演の真実がありそうだ。ほかに「沖縄と米軍基地」、「検証『地位協定』日米不平等の源流」、「沖縄・米軍基地観光ガイド」など、の著書は多岐に亘り、その異能ぶりを発揮している。 (川上)

ジャーナリスト鳥越俊太郎さんの講演会に参加して



1月18日(土)、NHK問題を考える会(兵庫)主催のジャーナリスト鳥越俊太郎さんの講演会に参加しました。鳥越さんは、大学の同期で、60年安保の時代に一緒に男声合唱を楽しんだ仲です。数十年ぶりに顔を見るのを楽しみに参加しました。熱気にあふれた集会でした。出来るだけ現場の雰囲気をお伝えするように感想を述べさせていただきます。

開場時間の10分以上前に会場に着きましたが、ものすごい人の列が中ホール入口からホールの外に溢れ、陸橋の下を通り、さらに西に伸びて横断歩道の信号のあたりまで続いていました。秘密保護法強行採決への危機感が溢れ、日本の民主主義はまだ死んではいないぞ！！と、感慨にふけた次第です。

私は、8周年記念講演会・総会のチラシを中に置かせてもらうことになっていたのですが中には入って所定の場所にチラシを置き、開場後、押し寄せてくる人波にチラシを配りはじめました。しかし、ホールの中でのチラシ配りは禁止されているとのことなので、一旦外へ出て長い行列にチラシを配りました。チラシを配り終えて再び入場後しばらくして、突然、入口のド

アが締め切られてしまいました。会場が満員になり消防法の関係で入場差し止めになったとのこと。ドアの外では、主催者からの説明があったものの、「なんでやねん！」といったパニック状態がしばらく続いていました。入場できなかった人は200名は超えていたとのこと。しかし、入場できなかった方で申告があった方には、後ほど主催者側から講演のDVDが送られたそうです。



私は、満員の会場の通路の階段に腰掛けて講演を聞いた次第です。

講演は、九条の会、ひがしなだの代表世話人の小山乃里子さんの総合司会で始まり、第1部で羽柴修弁護士（9条の心ネットワーク事務局長）が、秘密保護法のどこが問題なのかを戦前の軍機保護法や治安維持法と比較して講演されました。

そして、第2部で、黒いスーツを着こなした鳥越さんが登壇し、わかりやすく語り始めました。

- * 「私は秘密保護法のどこが問題なのかという話でなく、これを強行可決した安倍晋三という政治家がどういう人物かについて話したい。安倍さんは、田中角栄などのような利権で動く政治家ではない。信念を持った政治家で、かえって危ない。その信念とは、第1次安倍内閣の時に書いた「美しい日本」、あるいは、「戦後のレジームからの脱却」ということで、それは戦前のような、国民は天皇の赤子だという絶対主義的天皇制に変わって、戦後打ち立てられた主権在民や民主主義というものを打ち壊し、上の命令が下にまで行き渡る国家統制型の国を作りたい、それが「美しい国」だということです。国が決めた事を国民は守れ！！ ということ。その一つが、特定秘密保護報。大臣が秘密を決め、国民に知らしめない。」
- * 「マスコミに従事していたが、税金で活動している国や自治体がちゃんとやっているかをチェックするのが仕事。権力者のウォッチをしてチェックするのが仕事。これがジャーナリズムの原点。この原点を知らない人はジャーナリストではない。日本にはジャーナリストはひと握りしかいない。権力者や警官からネタ取りをしていた。秘密保護法が施行されると、何が秘密かは大臣と周りの一部の人しか知らない。したがって、地雷を踏まないようにという萎縮が起こってしまう。役人がやっていることの実態が国民に伝わらなくなる。ブン屋になったとき、先輩から、『殺人と強姦はだめだが、他は何をやっても良い』、と言われた。私は、詐欺、贈収賄、そのたなんでもやった。もう時効ですが…。」
- * 「秘密保護法が施行されたら、メディアは体を張ってやるだろうが、漏らす方が萎縮する。狙いは統制型の国家にすることである。私は、これはファシズムだと思っている。」
- * 「次に出てくるのが、首相補佐官が言った『集団的自衛権は今国会中にやる』という話。戦後60年一度も戦争をしていない。それは、300万人が死んで、原爆も食らって、戦争は悪いと思って、憲法に九条が入ったからだ。自衛隊は一発も弾を撃っていないし、撃たれてもいない。これは誇るべき事柄ですよ。歴代自民党政府も内閣法制局の見解として『集団的自衛権は九条との関連で認めない』としてきた。ところが、安倍首相は内閣法制局長官の首を切って外務省出身の集団的自衛権論者を据えた。集団的自衛権について法制懇話会がYESの答申を出したら、国会審議もなしに閣議決定して、集団的自衛権を行使できる国にするという。こんな無茶なことが許されるのか！！ ファシズム社会を作ろうとしている。2016年まで国政選挙がない。こういう風にしたのは、皆さんですよ！ 民主党が駄目だからといって自民党に投票した。反対があろうと無かろうと、安倍政権は突き進んで行

きますよ。どうしますか？（会場から、「デモをやろう！」の声）、そう、60年安保の時は毎日デモをしていました。国会を、十重二十重に取り巻いてNOというべきだ。暴力は駄目だがデモは認められていますよ！アホな人が「デモは、テロや」と言いましたが、どんな教育を受けたのやら…。皆さん、どんどんデモに行きましょう！」。

このあと、第3部として、小山さんの司会で鳥越さんと羽柴さんの対談が行われて、講演会は終了しました。残念ながら、鳥越さんと会って話をすることはできませんでしたが、秘密保護報廃止の展望が見えて来るような、熱気に包まれた、素晴らしい集会でした。（中村）

3月15日に史跡・戦跡めぐり 西須磨九条の会に協力、交流会も

年明け早々、先に「九条の会訪問記」で紹介した西須磨九条の会から、東灘・芦屋近辺で史跡・戦跡巡りをしたいので、ご協力を、という要請がありました。さっそく1月18日（土）の鳥越俊太郎さん講演&トーク（神戸文化ホール）の終了後、打ち合わせを行い、下記の要領で行うことになりました。

日時：3月15日（土）午前9時30分～

集合：阪神「石屋川」駅改札口

コース：阪神「石屋川」駅～東明八幡神社～処女塚～「火垂るの墓」文学碑～御影公会堂～真言宗弘隆寺～御影警察署跡（倉岡愛穂虐殺など）～御影師範学校跡（八木重吉詩碑など）～沢の井～御影標柱～阪神「御影」駅

なお、阪神「御影」駅近辺で、昼食を兼ねて西須磨九条の会との交流会を行いますので、多数のご参加をお願いします。（合田）

【寄稿】 松本ヒロ・コントライブ 4月11、12日、元町・中華会館

住吉山手に住み、灘区九条の会で活躍中の中野眞理さんから、各地の九条の会にも出演の多いコメディアン、松本ヒロさんのコントライブへのお誘いです。ご紹介します。（田所）

** ** ** ** **

松本ヒロさんのコントやライブで、「笑い」や「文化」を通じて、その中から今の腐りきった社会に、大事な民衆の思いを発信したり、声をあげて変革していきましょう！

素晴らしい文化「笑い」の中から、ロマンと想像力を育み、良心の声を聞いて、行動していきましょう！

4月11日（金）午後7時～と12日（土）午後3時～、元町の中華会館内の東亜ホールである松本ヒロ・コントライブに、ぜひ皆さん、いらして下さいね！

（松本ヒロ神戸ファンの会）

九条の会訪問記（その25） 兵庫国公退職者九条の会 現役組や地域の会とも連携して 新春のつといで交流

兵庫国公退職者九条の会（正式名称：「九条の会」に賛同する兵庫県国家公務員等退職者九条の会）は、地域の九条の会と連携し、憲法を守り活かす運動を進めることを、申し合わせており、会員は東灘の各種の催しにも、積極参加が目立っています。

総会は、毎年11月ごろの開催で、昨年11月12日の第7回総会の記念講演でも、中神戸法律事務所から西田雅年弁護士を招いて、「憲法を巡る情勢の特徴」を学び、とりわけ特定秘密保護法の危険性に、警鐘を鳴らしました。

九条の会として発足したのは、2008年5月31日。東灘に縁の深い岡本毅一（国税OB）、松本公（税関OB）の各氏をはじめ、18人が呼び掛け人となって結成し、第7回総会時点での会員数は263人。東灘関係者では、建設OBの西谷利文さんが世話人に、税関OBの松本公さんが事務局次長に再選され、両氏は年金者組合東灘支部の役員としても大活躍です。呼びかけ人の岡本毅一さんは、全日本年金者組合兵庫県本部の委員長。

現役時代は、全税関神戸支部長として大活躍した川上俊智さんも、退職後はこの会員で、居住地で青木九条の会を組織するとともに、九条の会ひがしなだの世話人として、睨みをきかせています。

多士済々の兵庫国公退職者九条の会は、世話人会をほぼ2カ月に1回、定期的に開催しており、退職者の組織である国公兵庫退職連だけでなく、現役組の兵庫県国公共闘や国公労働者九条の会との4者による共同も大きな特徴。昨年12月17日には、4者で「特定秘密保護法についての学習会」を成功させ、「守秘義務を負わされている」という現職組から喜ばれました。

この1年余を振り返ってみますと、まず昨年1月19日には、国公兵庫退職連との合同で新春のつどいを開催して、交流を深め、会場で5月3日の憲法記念日の新聞に反戦平和の意見広告を出す「市民意見広告運動」への賛同募金を呼び掛けて、1万円余りを集約。「兵庫国公退職者九条の会」の名で、朝日新聞全国版に、見開き2ページの意見広告「武力より平和力、9条の力」を掲載しました。

7月の国民平和の行進には、国公兵庫退職連や各单位退職者の会との合同で取り組み、「九条の会」アピール賛同署名にも旺盛に取りくんで、会員はこの1年で26人を増やしています。

今年度は、2月1日の新春のつどい（三宮・勤労会館多目的ホール）を皮切りに、①「九条の会」アピール賛同署名 ②地域の「九条の会」や「憲法改悪ストップ兵庫県共同センター」などの宣伝・署名活動、学習会、講演会などへの参加 ③会報の発行・配布——などに取り組みます。現役組との4者で取り組んできた「憲法問題学習会」事務局連絡会も存続させて、合同での運動を強めていく方針です。

（田所）



現役組と共同し、地域の会にも積極参加

これからの催し物

☆☆☆☆ 映画「標的の村」上映会

3月15日（土）14：00、19：00

会場：新長田勤労市民センター大会議室

3月16日（日）14：00、18：00

会場：阪急六甲 神戸学生青年センター

※ 問い合わせ先は「標的の村」を上映する会

☎078 (360) 4674 FAX(361)3614

